

家庭基礎シラバス 高校2年

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 家庭基礎	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	2単位	第2学年	・Creative Living「家庭基礎」で生活をつくろう（大修館書店）
学習の到達目標	自らを取り巻く環境や、周囲で起こるさまざまな事象に対して、探究心を持ち、観察・学習することで、家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な技術を総合的に習得させ、家庭生活の意義を理解するとともに、地域や家庭生活の向上を図る能力と、それらの能力を家庭や社会で生かし働こうとする主体的・実践的な態度を育てる。		
評価の観点	人の一生と家族・家庭、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むと共に、それらを社会のために適切に活用しようとする実践的な態度を身につけようとしている。＜主体性・多様性・協働性＞		
	人の一生と家族・家庭、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して論理的に考え、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。＜思考力・判断力・表現力＞		
	よりよい生活や社会の構築に関する技術と知識を総合的に身につけ、幅広い視野を持って問題意識を持ち、問題解決のために工夫しようとしている。＜知識・技能＞		

2. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4月 5月 6月	食生活のマネジメント ・栄養バランスのよい食事 ・炭水化物を摂る ・脂質を摂る ・たんぱく質を摂る ・無機質を摂る ・ビタミンを摂る ・豊かな食卓に ・食品のプロフィールを知る ・持続可能な食生活	・健康的な食生活を送る為に、各栄養素の摂取基準を知る。 ・食品の栄養的特質と調理性を理解し、食生活にいかせるようにする。 ・栄養素の種類と機能を理解し、食品を組み合わせる大切さを考える。 ・加工食品の特質を学び、調理にもいかせる力を養う。 ・近年多発する食品に関する事件を取り上げて、消費者として身につけるべき知識と判断力について考える。 ・環境と食生活について考える。	・家族や自分の食生活について、栄養や健康と関連させて考えようとしている。 ・健康や安全に配慮した食生活について考えようとしている。 ・持続可能な食文化に関心を持ち、環境と人間と食べ物

			とのかかわりについて考えようとしている。
9月	子どもの生活と子育てのマネジメント ・子どもの世界を知る ・命の誕生	・子どもの時期は人としての土台をつくる重要な時期であることを理解する。 ・子育ては妊娠中からすでに始まっているということを理解する。 ・胎児の成長・発達に伴い母体におこるさまざまな変化と健康管理の必要性をしり、父親になる男性や周囲の人が配慮すべきことを理解し、実行できるようにする。 ・新生児期・乳児期・幼児期までの子どもの心身の発達を知るとともに、発達とはそれらの総合的なものであることを理解する。 ・子どもにとって生活習慣を身につけることの重要性を知り、家族の果たす役割を理解する。 ・遊びの意義を理解し、児童文化に関心をもつ。 ・子どもの健康と安全について、基本的な理解を得る。 ・子育て支援のニーズとその社会的重要性を理解する。 ・子どもの権利条約や児童福祉法の理念を知り、子どももおとなと同様、一人の人間として人権をもっていることを理解する。 ・世界や日本の子どもを取り巻く問題を知り、その解決方法を考える。	・育てられる立場と、育てる立場の両方の視点に立って命の誕生について考える。 ・妊娠出産に関わる知識を獲得し、適切に対応できる力を持つ。 ・子どもの成長・発達にとってふさわしい家庭や社会環境の整備の大切さに気づかせる。 ・児童文化財の作成を通して、子どものサイズ感を実感する。 ・子どもにとって、生活から得られるあらゆる刺激がその子の人間形成につながっていることを理解する。 ・近年の子どもを取り巻く環境の変化や子育てをする保護者の課題について理解している。
10月	・こんにちは赤ちゃん ・好奇心いっぱい！		
11月	・子どものいる暮らし ・子どもの仕事は「遊び」 ・子どもの健康と事故 ・親になるということ ・社会で子育て		

1月 2月	経済生活のマネジメント ・生活を営むためのお金 ・経済の仕組みを知ろう ・お金と上手に付き合う術 ・18歳で変わる消費生活 ・進むキャッシュレス社会 ・「お金を借りる」ということ ・消費者トラブルの今 ・消費者の自律を支援する ・情報社会を生きる ・私たちが社会を動かす	・家計を中心とした経済の循環を知る。 ・家計の必要経費と長期的見通しについて考える。 ・家計管理が必要であること、またその方法を知る。 ・リスク管理の重要性を理解する。 ・契約について理解し、トラブルの特徴としくみを理解する。 ・購入方法、支払い方法の種類と特徴を知る。 ・キャッシュレス化にともない、お金の動きを的確にとらえられるような意識的な家計管理が必要であることを理解する。 ・消費者信用の利用について具体的に考えることができる。 ・消費者問題の現状について理解し、消費者問題が発生する原因を知る。 ・消費者を救済する法律や制度について理解する。 ・消費者の権利と責任のありかたについて考える。 ・適切な意思決定をするために、生活情報を活用し批判的思考力を働かせて評価できる姿勢を身につける。 ・消費行動が、社会や経済、政策に大きな影響を与えていくことを自覚する。 ・日本および近隣諸国や世界の食環境問題について広く問題提起し、自分自身の問題としてとらえる姿勢を身につける。	・多様化・複雑化する消費生活の課題について考えを深め意見をまとめる。 ・現代の消費の特徴についてライフステージと関連させながら考えようとしている。 ・リスク管理の方法を実践的に考えることができる。 ・キャッシュレス化の課題と対策について考え、その方法について意見交換ができる。 ・利息計算ができる。 ・クレジットカードの使い方や利息計算の仕方がわかる。 ・消費者問題の現状と課題に関心をもとうとしている。 ・消費者保護の法律としくみについて正しく理解し、必要なときに適切な行動がとれる。 ・自分の意思で積極的に情報を選び、活用していけるようになる。 ・持続可能な社会の構築に向け、行動できるようになる。 ・食生活の多様化や食環境の変化に興味をもち、SDGsとあわせて考え取り組んでいる。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
情報活用の実践力を身につけ、情報社会に積極的に参画し、それがよりよいものとなるよう改善及び修正を考えることができる。＜主体性・多様性・協働性＞			授業課題進捗状況(10%)
よりよい生活や社会の構築に向けて、実践する力を身につけた上で、新しいアイディアを生み出し未来を切り開いていこうとしている。＜思考力・判断力・表現力＞			作成課題の提出(10%)

適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度、あふれる情報を客観的に分析する力が身についている。＜知識・技能＞	定期考査(70%) 小テスト(10%)
--	------------------------

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%
- D：未提出，未実施・・・0%